

No	スライド テキスト
1	<p>自費施術ではカウンセリングが必須な理由!</p>
2	<p>カウンセリングが必須な理由 其の1</p> <p>→症状を改善するだけでは、患者さんに様々な「間違った認識」が残っている</p> <p>→「間違った認識」を放置したまま → 離反につながる</p> <p>→特に自費施術で成功するためには患者説明は重要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保険施術や一般的なリラクゼーションとの違い
3	<p>【離反につながる間違った認識】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.すぐに症状を改善してくれる 2.一旦楽になると戻らない 3.原因不明（自分は関係ない） 4.症状がなくなったらもう大丈夫と無理をしてしまう
4	<p>カウンセリングが必須な理由 其の2</p> <p>→潜在的な不安・疑問の解消 →「安心」→「信頼」… 紹介につながる</p> <p>※「不安」は潜在的なストレスとして治癒力を抑制、症状を戻り（再現）やすくなる</p> <p>※保険治療やリラクゼーションよりも丁寧な説明を心掛ける</p> <p>※自分用にチェックシートを使用してでも説明する</p> <p>→ 「カウンセリングも治療だ」と思って手を抜かない</p>
5	<p>その他カウンセリングの参考資料</p> <p>→「骨格調整による姿勢矯正提案前の最終確認」</p> <p>後半：〈気づきのきっかけを作る質問と回答例〉</p> <p>後半：〈患者さんの潜在的な悩みに対する質問〉</p> <p>→資料保管場所：サポート→導入説明→②イーファス活用法「骨格調整による姿勢矯正」</p> <p>→※本資料（動画・テキスト）も同じページから閲覧できます</p>
6	<p>カウンセリングのタイミングとポイント</p>

	<p>→①.説明するタイミング</p> <p>→②.説明項目とポイント（必須項目）</p>
7	<p>①.説明するタイミング</p> <p>→「<u>検証動作</u>」・「<u>姿勢評価（合成比較）</u>」・「<u>主訴の確認</u>」</p> <p>→「<u>施術中</u>」・「<u>持ち帰り資料</u>」</p>
8	<p>②.説明項目とポイント（必須項目）</p> <p>1.治癒について</p> <p><u>誤解 1.すぐに症状を改善してくれる</u> ※0か100か</p> <p>2.健康管理について</p> <p><u>誤解 2.一旦楽になると戻らない</u></p> <p>3.原因について</p> <p><u>誤解 3.原因不明（自分に関係ない）</u> → 間違った生活習慣</p> <p>4.施術直後について</p> <p><u>誤解 4.症状がなくなったらもう大丈夫と無理をしてしまう</u> → 施術後は回復期である</p>
9	<p>1.治癒について</p> <p>→<u>検証動作の確認</u> → <u>筋協調性（バランス）の改善</u></p> <p>→<u>合成比較で施術効果と姿勢改善を確認</u> → <u>重心安定性改善</u></p> <p>※稀に施術後の姿勢改善が見られない時のために、<u>検証動作の改善確認</u>は大切</p>
10	<p>→アドバイス：患者自身が「もう治った」「もう良くなる」と思っていたかポイント</p> <p>→「良くなって良かったですね」<u>検証前</u>の声掛け</p> <p>→主訴が半減していれば「もう大丈夫ですよ」</p> <p>人には正常に働けば、切り傷でさえくっつくほどの自然治癒力が備わっています。今治癒力が高まるようにリセットしてあるので、<u>不摂生や無理をしなければ</u>、途中多少症状を感じることもありますが心配ありません。</p>
11	<p>2.健康管理について</p> <p>→固有の使いグセ</p> <p>→使いグセの原因は、<u>環境</u>・<u>使い方</u>・<u>管理方法</u>・<u>ストレス</u>であり、なんらかの改善がなければ、<u>疲れたら繰り返すもの</u></p>

	→使いグセは完治するものではなく管理するもの
12	<p>3.原因について</p> <p>→「使いグセ」「不良姿勢」</p> <p>→環境・使い方・健康管理・ストレス管理</p> <p>規則正しい生活、呼吸、休養 etc</p>
13	<p>4. 施術直後について</p> <p>→症状が消失しても、状態は回復していない</p> <p>→ADL ※できる範囲で取り組んでもらい強制感を与えすぎないこと</p> <p>→定期的なセルフケア（定期的な施術）</p>
14	<p>まとめ</p> <p>→「カウンセリングも治療だ」と思って手を抜かない</p> <p>丁寧を心掛け、「間違った認識」や「潜在的な不安」を放置しない</p> <p>→誠実な態度と言葉の力 →「もう大丈夫です」「必ず良くなります」</p> <p>→症状が半減していたら、一番気になる手技を念のため繰り返すことはあっても、基本的に症状を深追いしない ※おまけ → 小指チェックを教える</p>